



第54期 事業報告書

平成11年4月1日～平成12年3月31日

GLORY

グローリー工業株式会社



取締役社長
尾上 壽男

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

平素は格別のご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、当社第54期（平成11年4月1日から平成12年3月31日まで）の営業の概況等につきましてご報告申し上げます。

営業の概況

全般的概況

当期のわが国の経済は、政府の景気浮揚政策もあり長期の不況からは何とか脱し、本格的回復に向けた動きとは言えないまでも、景気は改善の方向にあり、明るい兆しが出始めております。

このような一般景況のなかで、当社の関連市場である金融業界につきましては、大手銀行を中心とした合併・統合等、徹底した構造改革が強力におし進められているため、合理化投資に対する需要は堅調に推移したものの、全般的には厳しい環境でありました。また、流通業界につきましては、警備保障会社向けの需要はあったもののスーパー・百貨店等の企業収益が伸び悩み、設備投資意欲に進展が見られず、低迷いたしました。一方、自動販売機、自動サービス機器の市場につきましては、市場成熟化が進む環境のなか、たばこ販売機が前期と一転して需要減にみまわれるなど、厳しい環境でありましたが、低迷を続けていた遊技業界におきましてはカード化等の進展で、明るさが見え始め順調に推移してまいりました。

このような環境下にあつて当社は、各市場におけるきめ細かなニーズに迅速に対応すべく新技術の研究と新製品開発を積極的に推進するとともに、開発・設計業務や生産の合理化・効率化に取り組んでまいりました。この結果、当期の売上高は655億4千5百万円（前期比1.8%減）となりました。このうち、国内の売上高は590億3千6百万円（前期比4.8%減）、輸出の売上高は65億8百万円（前期比38.3%増）となりました。利益につきましては、コストダウン活動や一般経費の節減など全社を挙げて経営体質の改善に傾注した結果、経常利益は38億8千万円（前期比4.6%増）となりました。当期利益につきましては、適格退職年金の過去勤務債務未償却部分及び退職一時金の要支給額引当金不足分14億8千7百万円を特別損失に計上したため、9億6千2百万円（前期比43.6%減）となりました。

また、利益配当金につきましては、昨年12月に1株につき8円の間配当を実施いたしました。期末の利益配当金は1株につき8円（年間には中間配当を含め16円）とさせていただきます。

部門別概況

売上高を部門別にみますと次のとおりであります。

■ 貨幣処理機部門

当部門は、国内につきましては、偽造硬貨識別対策の機能を有する硬貨包装機やオープン出納システムの構成機器である紙幣整理機等は、合理化に対する根強い需要により売上は順調であり、更に、警備保障会社向けの機器である売上金入金機の需要も総じて堅調でありましたが、流通業界向けの機器である小型入金機等の機器は、設備投資の抑制で減少いたしました。輸出につきましては、アジア、中南米向けの紙幣計算機の販売は減少いたしました。米国、欧州向けの硬貨包装機や入金機は順調に増加いたしました。この結果、当部門の売上高は218億1千4百万円（前期比1.7%増）となりました。

■ 情報処理機及び貨幣端末機器部門

当部門は、国内につきましては、OEM製品の紙幣識別装置は順調でありましたが、金融機関向けの窓口周辺機器である循環式の紙幣入出金機やATM(現金自動預け払い機)搭載の硬貨入出金機の販売は、金融業界の厳しい経営環境を反映し、大幅に減少いたしました。また、スーパー・小売店向けのレジ釣銭機が、投資抑制もあり減少したことに加え、ガソリンスタンド向けの小型現金管理機も減少いたしました。一方、輸出につきましては、欧州向けの紙幣受入装置や米国向けの紙幣放出装置が、自動化・機械化の進展により大幅に増加いたしました。この結果、当部門の売上高は174億1千1百万円(前期比4.1%減)となりました。

■ 自動販売機部門

当部門は、遊技業界に明るさが見え始め需要が増えたことにより、カード販売機や玉貸し機・メダル貸し機の販売は大幅に増加いたしました。また、たばこ販売機につきましては、たばこメーカーの営業戦略による特需も一段落し、販売は大幅に減少いたしました。この結果、当部門の売上高は102億5千7百万円(前期比24.5%減)となりました。

■ 自動サービス機器部門

当部門は、金融機関や流通業界向けの多能式紙幣両替機の販売につきましては、市場の成熟化に加え投資抑制もあって減少いたしました。また、遊技業界の関連機器であるカード処理機や景品管理ターミナル等の販売は大幅に増加いたしました。この結果、当部門の売上高は73億4千9百万円(前期比35.1%増)となりました。

■ その他部門

当部門は、主にサービス・修理用部品であり、販売は順調でありました。この結果、当部門の売上高は87億1千3百万円(前期比7.5%増)となりました。

会社が対処すべき課題

当社をとりまく環境につきましては、最大市場である金融業界は、金融機関の店舗統廃合が本格化することが予想されるだけに、厳しい展開が続くと思われます。当社といたしましては、これまで核事業としてまいりました貨幣処理システ

ム事業の一層の競争力強化に加え、今後成長が期待される各種帳票類の統合的処理システム事業（ドキュメントプロセッシング事業）等の拡大を図ることによって、お客様の新しい価値創造に努めてまいりたいと考えております。また、流通業界におきましては、デビットカードの更なる実用化等、新たな市場の動きが出始めております。当社といたしましては、これまでの貨幣処理技術に情報技術を融合させることによって、これらの変化を的確にとらえ、事業拡大につなげてまいりたいと考えております。

次に、自動販売機市場ですが、たばこ販売機につきましては、市場は成熟期にあり、価格競争が一層厳しくなることが想定されます。当社といたしましては、トップシェアの利点を活かした新製品の投入により、より一層のシェアアップに努める所存であります。

一方、明るさが見え始めております遊技業界につきましては、カード化対応への投資及び顧客管理システムへの投資が一層顕在化し始めております。このような中で市場ニーズを的確にとらえたシステム提案を行っていくと同時にグループ総力の結集により市場での競争力を高めてまいりたいと考えております。また、新しく発行されます2000円紙幣及び500円硬貨の改鑄につきましては、お客様の要望に対し万全を期して対応していく所存であります。また、これらの事業展開を支える体制として、グローリー商事株式会社を完全子会社といたしました。これは、各事業の完結性を高め、事業展開のスピード向上を図ることを狙ったものであります。このように、環境変化へのより迅速且つ的確な対応に努め、グループの利益の向上を図り、株主の皆様の期待に応える所存であります。

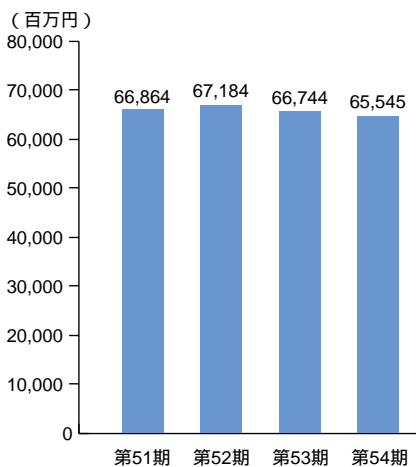
グローリー商事株式会社完全子会社化について

当社は、経営基盤の強化と持続的な事業の発展並びに収益力の向上を図るためには、企画、開発から販売、サービスまで一貫した競争戦略を展開していくとともに、迅速な意思決定と経営資源の最適配分を図っていくことが必要と考え、「株式交換制度」により、平成12年3月1日をもってグローリー商事株式会社を完全子会社にいたしました。

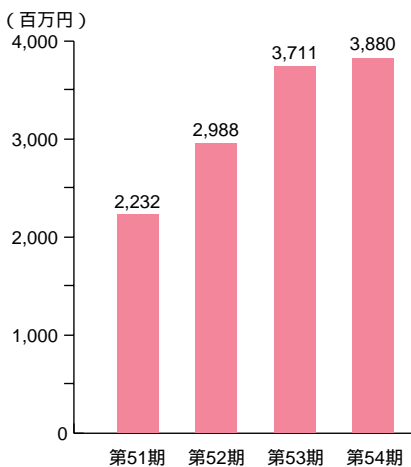
株主の皆様には、今後ともなお一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成12年6月

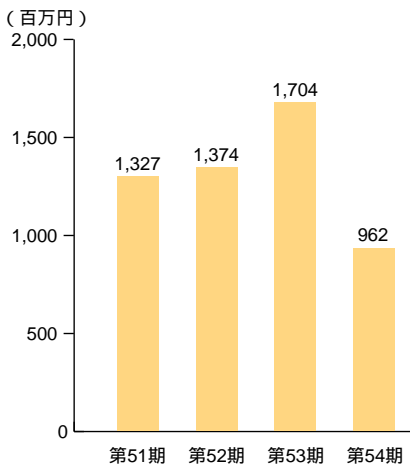
売上高



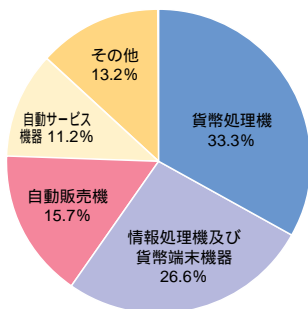
経常利益



当期利益



部門別売上構成



貸借対照表

(平成12年3月31日現在)

科 目	金額 百万円	科 目	金額 百万円
[資産の部]		[負債の部]	
流動資産	59,273	流動負債	20,726
現金及び預金	21,705	支払手形	3,586
受取手形	72	買掛金	5,679
売掛金	21,927	短期借入金	6,240
有価証券	958	未払金	1,738
自製材料	1	未払法人税等	1,196
部品	5,858	未払費用	378
仕掛品	9	預り金	42
貯蔵品	1,936	賞与引当金	1,355
短期貸付金	5,893	設備支払手形	504
繰延税金資産	5	その他流動負債	4
その他流動資産	41		
貸倒引当金	412	固定負債	2,818
	556	退職給与引当金	2,078
	105	役員退職引当金	740
固定資産	40,321		
有形固定資産	21,448	負債合計	23,544
建築物	8,143		
機械及び装置	393	[資本の部]	
車両及び運搬具	1,561	資本金	12,892
工具器具及び備品	39	資本金	12,892
土地	3,094	法定準備金	22,304
建設仮勘定	8,177	資本準備金	19,119
	37	利益準備金	3,184
無形固定資産	1,814	剰余金	40,853
ソフトウェア	1,787	配当準備積立金	3,000
その他無形固定資産	26	試験研究基金	2,000
投資等	17,059	別途積立金	32,800
投資有価証券	5,443	当期末処分利益	3,053
子会社株式	8,723	(うち当期利益)	(962)
子会社出資金	63	資本合計	76,050
長期貸付金	124		
長期前払費用	104	資産合計	99,595
繰延税金資産	1,054	負債及び資本合計	99,595
その他投資等	1,545		
貸倒引当金	0		

(注)1.記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

2.子会社に対する短期金銭債権 17,247百万円 長期金銭債権 110百万円

短期金銭債権 1,608百万円

3.有形固定資産の減価償却累計額 30,587百万円

4.貸借対照表に計上した固定資産のほか、電子計算機及びその周辺機器の主要部分についてはリース契約により使用しております。

5.重要な外貨建資産 子会社株式 398百万円(1,340千ドル他)

6.保証債務額 147百万円

7.1株当たりの当期利益 27円49銭

損益計算書

(自平成11年4月1日 至平成12年3月31日)

		科 目	金 額
			百万円
経常損益の部	営業損益の部	営業収益	65,545
		売上高	65,545
		営業費用	61,374
		売上原価	54,650
		販売費及び一般管理費	6,724
		営業利益	4,170
	営業外損益の部	営業外収益	951
		受取利息	69
		受取配当金	138
		有価証券評価益	144
		雑収入	599
		営業外費用	1,241
		支払利息	73
		社債利息	266
	雑損	900	
経常利益		3,880	
特別損益の部	特別利益	60	
	固定資産売却益	12	
	貸倒引当金戻入額	27	
	子会社株式売却益	20	
	特別損失	2,185	
	固定資産処分損	110	
	過年度研究開発費	586	
	過年度退職給与引当金繰入額	1,487	
税引前当期利益		1,756	
法人税、住民税及び事業税		1,600	
法人税等調整額		806	
計		793	
当期利益		962	
前期繰越利益		1,708	
過年度税効果調整額		661	
中間配当額		277	
当期未処分利益		3,053	

(注)1. 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

2. 子会社との取引高
 売上高 54,639百万円
 仕入高 14,945百万円
 営業取引以外の取引高 1,251百万円

3. 過年度研究開発費は、前期末に棚卸資産に計上していた試作に係る研究開発費を損失処理したものであります。

利益処分

摘	要	金	額	円
当 期 未 処 分 利 益		3 053 526 893		

これを次のとおり処分いたします。

利 益 準 備 金	38 615 450
利 益 配 当 金 (1 株 に つ き 8 円)	302 554 744
役 員 賞 与 金 (監査役分7 200 000円を含む)	69 800 000
特 別 償 却 準 備 金	32 480 000
別 途 積 立 金	600 000 000
次 期 繰 越 利 益	2 010 076 699

- (注)1. 平成11年12月10日に277 846 976円(1株につき8円)の中間配当を実施いたしました。
2. 特別償却準備金の積立は、租税特別措置法の規定に基づくものであります。

満足の深化へ、システムの進化で。

新2000円紙幣、新500円硬貨、外国貨混入にも最新システムで対応。

原点とすべきは、顧客の、そして働く人の満足。

よりいっそう快適で機能的、エネルギッシュなバンクビジネスの実現へ。グローリーは、バンクビジネスの様々なシーンで活躍する製品を幅広くラインアップ。

業務の自動化、業務フローの効率化に向けた取組みを強力に支援します。



多能式紙幣両替機 EN 100

例えば多能式紙幣両替機 EN-100 では、出金紙幣カセットの増設等により、新2000円紙幣、新500円硬貨にも対応可能です。さらに新券両替用、出金量の多い紙幣の収容量アップ用などと、運用に合わせて使い勝手をカスタマイズできる次世代両替機です。

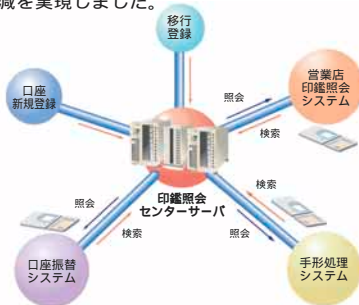
また、硬貨自動包装機 WM 301/300シリーズ では、高精度な識別能力を証明しております。《高精度画像センサーシステム》を搭載し、偽造・変造硬貨の混入を厳しくチェック、さらに《両面汚損貨検知システム》により、硬貨両面の汚損状態を認識し、より厳正な識別を可能にしました。

このように、グローリーの識別精度は進化を続けております。

センターサーバで集中管理 印鑑照会トータルシステム

情報化が進む現代の中にあって、口座振替、窓口での印鑑照合、手形処理に至るまで、その作業のほとんどが手作業だった印鑑照合。印鑑を抜きにしては語れない日本の金融業界に、印鑑照会トータルシステムは新風を吹き込みました。

これまで手作業で処理していた各種伝票、帳票、証書などの帳票類をスキャナで読み込み文字認識し、センターサーバに蓄積。サーバと営業店との間にネットワークシステムを形成することにより、各業務ステージでの効率的かつ迅速な印鑑照合と、営業店ごとの印鑑票管理業務と保管スペースの削減を実現しました。



印鑑照合支援システム

DPステーション FU 100



照合画面例

手形の口座番号をOCRで自動認識。印鑑サーバの登録印とDPステーションのスキャンイメージを自動的に照合、印鑑照合業務の大幅な短縮がはかれます。

営業店での印鑑照合は？

これまで口座を開設した店舗でしかできなかった届出印の照合を、店舗を問わず可能にしました。窓口の「印鑑照合検索端末機」で瞬時に印鑑データベースにアクセスし、ディスプレイに表示された印影などのデータと、伝票に押印された印影・署名などを目視で照合できます。従来1件あたり90秒かかっていた検索時間がわずか2秒以下に短縮されました。

社内の現金の受渡しを自動化 『小口現金精算システム』



「小口現金精算システム」は、社内に設置した複数の自動決済端末機 SAT 10 を、経理出納部門に設置した決済端末サーバで集中的に管理、小口精算にともなう経理と各社員との間の現金受け渡しを自動化したものです。経理出納部門の業務負担を軽減し、社員の方には『社員証 + 暗証番号入力』で使用者を照合後出金というATM感覚でお使いいただけます。



自動決済端末機 SAT 10

昼食時の食堂の混雑を解消 『社員食堂向けオートレジシステム』



「オートレジシステム」は、カフェテリアタイプ食堂向けのオートPOSシステム。食器の底に貼り付けたICタグデータにより、料理を載せたトレーをレジに置くだけで瞬時に合計金額を計算、金額やカロリーなどを画面に表示し、利用者は社員証などのICカードにより決済を瞬時に完了できます。

また導入側は、レジの無人化による人件費の削減、メニュー管理による効率的な人材配置や食材の仕入につなげることが可能です。

「オートレジシステム」が、昼食時に集中する食堂利用者に新しいスタイルやリズムを生み出します。

ゼンリンと共同開発『処方箋自動受付機』



処方箋自動受付機 FHS 10

医薬分業が進む現在、患者は医師の診察後に処方箋を受取り、その処方箋に基づき希望する保険薬局で調剤することが多くなっています。

当社は永年培ってきた通貨処理技術を応用して、サイズや厚みが統一されていない処方箋を高速で読み取る、処方箋自動受付機 FHS 10 を開発いたしました。

本機は病院内に設置。診察後、患者がカラーディスプレイ上の住宅地図で、自宅や職場周辺など受け取りを希望する“かかりつけ薬局”とその日時等を指定、

処方箋が薬局に自動FAX送信されます。患者は指定薬局に薬を受け取りに行くだけ。院外処方箋薬局案内窓口や薬の受け渡しで長時間待つことはありません。

今後は、先に開発している病院向け精算システム FK 100/200 と併せて、病院関連市場にも積極的に進出してまいります。



受付手順イラストガイドス例

すべての人にやさしい社会を

人はみんな、社会の一員。
 すべての人がともに生き、
 生きがいを感じられる社会を実現する取組みのひとつとして、
 子会社を設立いたしました。

グローリーフレンドリー株式会社

平成12年4月に、「障害者の雇用の促進等に関する法律」に基づく特例子会社として設立されたグローリーフレンドリー株式会社は、当社の清掃業務や社内メール便の仕分・配布、メンテナンスなどを中心に行っています。現在、従業員は16名で、そのうち障害を持つ人は5名。それぞれの持つ能力に合わせて、仕事に取り組んでいます。

「ハンディキャップはあるけれど、それを乗り越えよう。」そういう前向きな姿勢で、作業指導者のもと、日々仕事をこなしています。

ゴミの分別についてのピラを貼り出すなどの小さな工夫も積み重ね、当社の社内での評判も上々です。

グローリーは、すべての人にやさしい社会が実現するように、これからも障害をもつ人たちとの共生を目指してまいります。

休憩時間に談笑。



テキパキと仕事をこなします。

会社の概要

平成12年3月31日現在

商号	グローリー工業株式会社 GLORY LTD.
設立	昭和19年11月27日
資本金	12,892,947,600円

事業所

本社

〒670 8567
兵庫県姫路市下手野一丁目3番1号
TEL(0792)97 3131(代表)
FAX(0792)94 6233

東京本部

〒141 8581
東京都品川区大崎五丁目4番6号
TEL(03)3495 6301(代表)

埼玉工場

〒347 0004
埼玉県加須市古川二丁目4番地1
TEL(0480)68 4661(代表)

従業員の状況

従業員数	男性	1,427名
	女性	324名
	合計	1,751名

役員

*取締役会長	松	下	寛	治
*取締役社長	尾	上	壽	男
取締役副社長	川	内	俊	補
専務取締役	石	田	學	人
専務取締役	西	野	秀	人
常務取締役	尾	上	勝	彦
常務取締役	村	上	雅	俊
常務取締役	大	上	邦	弘
取締役	有	吉		透
取締役	牛	尾	允	俊
取締役	浦	川	輝	三
取締役	松	岡	則	重
取締役	松	下	秀	明
取締役	橋	本	浩	一
取締役	龍	田	信	也
常勤監査役	八	幡	尚	弘
常勤監査役	上	羽	昭	夫
監査役	池	内	久	和
監査役	安	平	和	彦

1. *印は、代表取締役であります。
2. 監査役池内久和、安平和彦の両名は、株式会社の監査等に関する商法の特例に関する法律第18条第1項に定める社外監査役であります。

株式の状況

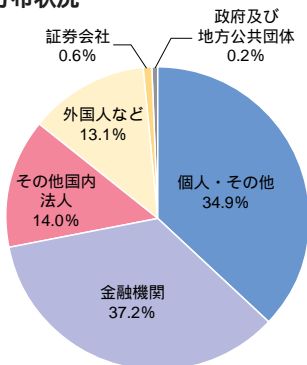
平成12年3月31日現在

会社が発行する株式の総数	130,000,000株
発行済株式の総数	37,820,205株
株主数	3,732名 (前期末比1,302名増)

大株主

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
日本生命保険相互会社	2,094	5.5
龍田紡績株式会社	1,969	5.2
株式会社さくら銀行	1,641	4.3
有限会社オノエインターナショナル	1,100	2.9
グローリーグループ社員持株会	1,044	2.8
有限会社ウイニング	1,000	2.6
株式会社住友銀行	904	2.4
株式会社三和銀行	904	2.4
第一生命保険相互会社	858	2.3
株式会社東京三菱銀行	807	2.1

株式所有者別分布状況



GLORY

スマートでスッキリ収まる
奥行きわずか333ミリの薄型ボディ。
しかも多銘柄販売 & 豊富な収容量を実現。
グローリーの薄型たばこ販売機シリーズ新登場。



薄井商店の新しい自販機は

あんなに薄いの

タバコがたっぷり入るらしい。



Depth 333 mm
SLIM VENDER

NEW
SERIES

株主メモ

決算日	3月31日
定時株主総会	6月中
1単位の株式の数	1,000株
公告掲載新聞	日本経済新聞
名義書換代理人	株式会社だいこう証券ビジネス
同事務取扱場所	〒541 8583 大阪市中央区北浜二丁目4番6号 株式会社だいこう証券ビジネス 本社証券代行部 TEL(06)6203 1751(代表)
同取次所	株式会社だいこう証券ビジネス 全国各支社

単位未満株式の買取請求

単位未満株式(1,000株未満の株式)の買取請求は、名義書換代理人にてお取り扱いしております。

株券の保管振替制度を利用して預託された単位未満株式の買取請求は、預託窓口の証券会社を通じてお申し出下さい。

GLORY



この報告書は再生紙を使用しております